

# 実は 「古典」が面白い！



世の中に良い影響を与える  
立派な人物になるための  
古典「大学」入門

中村 雄介

**Manabeat**

電子書籍化シリーズ

第**2**弾

## はじめに

---

「湯（とう）の盤（ばん）の銘（めい）に日（い）わく、  
苟（まこと）に日に新た日々に新たに、  
また日に新たならんと」

皆さまはじめまして。

私は中村雄介（なかむらゆうすけ）と申します。

上記のフレーズは

古典「大学」に収録されている言葉です。

古代中国王朝の殷（いん）の名君主であった

湯王（とうおう）の洗面器には

上記文章が刻みつけてあり

毎朝顔を洗う度に

自己を新鮮にして停滞がないようにしていたそうです。

毎朝をどう迎えるか？

どんな心構えで迎えるか？

を国のトップが毎朝毎朝意識していたからこそ

世の中がしっかり治まったのだ

という大切なお話で

暗記しているくらい私の大好きなフレーズです。

遅ればせながら自己紹介させていただきます。

私は中村雄介と申します。

かれこれ15年ほど「教育」の仕事に関わらせて頂いております。

2011年の9月に独立し

株式会社マナビートという小さな会社を経営しております。

<http://www.manabeat.jp/>

企業と医療機関の管理部門を専門にして

「面接」のやり方や「いい人財」を見分ける方法をアドバイスさせて頂きながら

ともに管理部門の社員さまと成長できることに

日々喜びを感じながら仕事をさせて頂いております。

私が古典「大学」に触れたのは

ちょうど今から3年ほど前です。

株式会社 致知出版社の取締役営業部長さまよりプレゼントされ

それから何度も

何度も繰り返し読ませて頂いております。

私は「古典」はそれまでに

「孫子」を好んで読んでおりましたが

「孫子」はどちらかといいますと

「戦略的に世の中を生き抜いていく」ための方法が書かれていますが

「大学」はそうではなく

「人として正しい道を歩んでいくにはどうすればいいか」

その方法が書かれています。

この本を手にとって頂いた皆さまは

もしかしたら

「生き方に迷っている」

そんな方がいらっしゃるかもしれません。

いまの世の中は

広い一本道を車で走るように

「まっすぐ」をキープする

というのがなかなか難しい現状です。

でも

そんな中を

もし「まっすぐ」に進む方法をお求めのようでしたら

この古典「大学」がきっとお役に立てることだと

私はそう信じています！

どうぞ最後まで楽しんで頂けますと幸いです。

【収録内容】

1. 『大学』って何？
2. 『大人（たいじん）』ってどんな人？
3. 三つの柱『三綱領（さんこうりょう）』について  
～「明德」って何？～
4. 三つの柱『三綱領（さんこうりょう）』について  
～「親民」って何？～
5. 三つの柱『三綱領（さんこうりょう）』について  
～「至善」って何？～
6. 物に本末あり、事に終始あり  
～物事の本質について～
7. まとめ

## 『大学』って何？

---

そもそも『大学』って何？

...という疑問からスタートしているかもしれませんね。

『大学』は今でいう

中学校や高校の延長線上にある大学とは違いますよ。

今から約2500年前に

『論語（ろんご）』で有名な孔子（こうし）さんのお弟子さんである  
曾子（そうし）さんが書かれた本です。

当時の中国では「春秋戦国時代（しゅんじゅうせんごくじだい）」といって  
戦いに次ぐ戦いに明け暮れていたような時期でしたが

孔子さんは「仁」＝「思いやり」が大切だよ！

...という教えをいろいろな国に行っては説き

また違う国に行っては説き

...という活動をされていた方ですね。

その弟子である曾子さんが

師匠である孔子さんの教えを一つひとつきちんとまとめたもの

これが『大学』という本なんですね。

そして『大学』という本は

『大人（たいじん）』になるための『学問』であり

これを略して『大学』という名前がつけられているんですね。

## 『大人（たいじん）』ってどんな人？

---

次に...

先ほど登場した『大人（たいじん）』についてなのですが  
『大人（たいじん）』とは

「世の中に良い影響を与える立派な人物」

とそう表現されます。

いわゆる「偉人」の中でも多くの皆さんに好まれる  
愛されるキャラクターを持った方々  
という理解でいいかと思います。

坂本竜馬・西郷隆盛・イチロー...  
たんなる有名人というだけではなくて  
後から続く人々の目標になり  
（イチローさんをご存命ですが...）  
亡くなった後でも  
ずっとその方のことを目標にしたい  
というファンのしっかりついた  
そんな人物のことを  
『大人（たいじん）』というんですね。

そしてその『大人（たいじん）』になるためにはどうすればいいか？  
というその方法が書かれているのが  
『大学』  
という本なんですね。

## 三つの柱『三綱領（さんこうりょう）』について ～「明德」って何？～

---

いよいよ古典『大学』の本文に入っていきますね。

（本文）

大学の道は  
明德を明らかにするにあり  
民に親しむにあり  
至善（しぜん）に止（とど）まるにあり

以上が『大学』冒頭に書かれている文章です。

そしてこれらの3つを  
大学の『三綱領（さんこうりょう）』と呼び  
『大学』における大切な「三つの柱」  
とされています。

ここに登場する  
「明德」「親民」「至善」について  
3回にわけて説明を加えますね。

「明德」とは表に現れた徳のことです。  
反対にまだ表に現れていない徳のことを  
「玄德（げんとく）」といいます。

小さな男の子が意中の女の子がいて  
本当は好きなのに  
「いじわる」をしてしまう  
...そういうのありますよね？

この時の「好き」な思いは  
表には現れていませので「玄德」です。

この男の子が勇気を持ってその女の子に  
「好きだ！」



と告白する時！

これがこの状態が「明德」だ  
ということです。

まあ...

変なたとえにはなりましたが

徳は

「本来人間が持っているいいところ」  
のことです。

「正直な心」

「思いやりの心」

「勇気」

...など

これらをすべてひっくるめて「徳」ということばで表しています。

「世の中に良い影響を与える立派な人物」

つまり

「大人（たいじん）」

になるための道の第一歩は

この「徳」を表に現すことなんですよ！

というのが一番最初の教えなんです。

これを本文では

「明德を明らかにするにあり」

と表現されている

ということですね。



## 三つの柱『三綱領（さんこうりょう）』について ～「親民」って何？～

---

前回より古典『大学』の本文に入っていました  
復習よりスタートしますね。

（本文）

大学の道は  
明德を明らかにするにあり  
民に親しむにあり  
至善（しぜん）に止（とど）まるにあり

以上が『大学』冒頭に書かれている文章です。

そしてこれらの3つを  
大学の『三綱領（さんこうりょう）』と呼び  
『大学』における大切な「三つの柱」  
とされています。

ここに登場する  
「明德」「親民」「至善」について  
3回に分けて説明を加えております。

本日は2番目の「親民」についてお話ししていきます。

前回登場した「明德」とは...

「まだ表に現れていない徳（人間が本来持っているいいところ）」  
を表に現そう！  
ということでしたね。

またしてもたとえ話にはなりますが...

リンゴが木から落ちるのを見て  
「万有引力の法則」を発見したニュートンさん  
皆さまもご存じですよ？

その「万有引力」は  
地球には物質を引っ張る力があるということで  
何もニュートンさんが新たに発明した  
...というものではありませんよね？

ニュートンさんの発見前から  
ず〜〜〜っと  
存在していた力なんです。

でも  
ニュートンさんが発見するまでは誰もその法則に気づくことはできなかった。  
正確には気づいていたかもしれませんが  
それは「無意識」でのことであって  
「意識」できるようになったのは  
ニュートンさんが「はじめて」だ！  
ということですね。

これもひとつの「玄德（まだ表に現れていない徳）」から  
「明德」を明らかにした  
という例になります。

そして今回お伝えしたい

「親民」＝「民に親しむ」とは...

「明德を明らかにした人」は  
それを  
自分だけのものにするのではなく

「周りの方にどんどん伝えていきなさい！」

ということなんですね。

まず  
自分の中や身の回りにある  
まだ表には現れていない

「いいところ」を表に現したら

それを

「周りの方に伝えていく」

これを行うことが

「世の中に良い影響を及ぼす立派な人物」

つまり

「大人（たいじん）」になる道の二歩目だよ

という教えになります。

## 三つの柱『三綱領（さんこうりょう）』について ～「至善」って何？～

---

ここ2回で古典『大学』の本文に入っていました  
今回も復習よりスタートしますね。

（本文）

大学の道は  
明德を明らかにするにあり  
民に親しむにあり  
至善（しぜん）に止（とど）まるにあり

以上が『大学』冒頭に書かれている文章です。

そしてこれらの3つを  
大学の『三綱領（さんこうりょう）』と呼び  
『大学』における大切な「三つの柱」  
とされています。

ここに登場する  
「明德」「親民」「至善」について  
3回に分けて説明を加えております。

本日は3番目の「至善」についてお話ししていきます。

前回までに登場した「明德」「親民」によって...

「世の中に良い影響を及ぼす人物」  
である  
「大人（たいじん）」になるためには

「まだ表に現れていない徳（人間が本来持っているいいところ）」  
を表に現そう！

そしてその徳を  
「周りの方にどんどん伝えていこう！」

ということでしたね。

そして3番目に登場する

「至善」

「至」とは...

他とは比べようもないくらい「トップ」であること

「善」とは...

善悪の善で「善いこと」＝「良いこと」ですね。

なので

「至善に止（とど）まる」

とは...

最高の良い状態をキープしなさい

またはさらに高めていきなさい！

ということですね。

「本来持ついいところ」を発揮して

それを「周りに伝える」ということを繰り返し

その最高の状態を目指しなさい！

ということです。

オリンピックやギネスの記録のようなものですね。

常に今ある最高記録は

新たな最高記録によって書き換えられていくものです。

そういう風に

自分自身の最高の状態「最高記録」を常に更新していきなさいよ！

これが「大学」の一番大切な「三つの柱」

『三綱領（さんこうりょう）』の教え

なんですね。

このことを

大学の道は

明德を明らかにするにあり

民に親しむにあり

至善（しぜん）に止（とど）まるにあり

と表しているんですね。

## 物に本末あり、事に終始あり ～物事の本質について～

---

前回までで古典『大学』そのものについて

『大学』の本文をもとに  
大切な「三つの柱」である「三綱領（さんこうりょう）」  
について学んできましたね。

では本日最後の講義は

「世の中に良い影響を及ぼす立派な人物」  
つまり「大人（たいじん）」になるための道において  
気をつけるべきポイントについてお話しさせていただきます。

（本文）

物に本末あり  
事に終始あり  
先後する所を知れば  
すなわち道に近し

以上が『大学』に書かれている文章です。

物に本末あり  
とは...  
物には「本（もと）」と「末（すえ）」がありますよ  
ということです。

樹木にたとえると...  
表に現れている「幹」「枝」「葉」は「末（すえ）」で  
地面の中にあって表からは見えない「根」が「本（もと）」です。

「根」が育っていないことには  
「幹」「枝」「葉」が立派に育つことはないですね？

そういう風に物には必ず「根」になる部分  
「本（もと）」になる部分があるんですよ  
ということです。



事に終始あり

とは...

文字通りですが

事には「始まり」があり「終わり」がある

ということです。

時刻は0時からスタートして24時間で次の日になりますし

この世に生を受けた者は必ず死を迎えますね

そういう風に事には必ず「終わり」もあるし

「始まり」もあるんだよ

ということです。

そして

先後する所を知れば

すなわち道に近し

とは...

物事の「本質」と「終始」をとらえた上で

何を先にして？

何を後にすればよいか？

を知って行動すれば

「人の道」から大きく外れることはない

ということです。

復習になりますが

『大学』の「三綱領（さんこうりょう）」では...

「世の中に良い影響を及ぼす立派な人物になるには」

↓

「まだ表に現れていないいいところを引き出す」

↓

「周りの方々にそのいいところを伝えていく」

↓

「その最高の状態をさらに更新していく」

という順番が大切だということです。

何事も「キモ」になる部分があるし

「優先順位」があるから

そこにまずは注目し

そこからまずは始めなさい！

ということを教えている

ということですね。

## まとめ

---

いかがでしたか？

「なんだか少し古典に対する抵抗がなくなった！」

という感想をお持ち頂けたのなら

この上なく嬉しい限りです！！

『大学』は他にも「大人（たいじん）」を目指すために...

というばかりではなく

「人生はこう生きたほうがいい」

という「指針」になることが多く書かれています。

だから私は『大学』を「座右の書」としております。

もしご興味があるようでしたら

一度お手にとって読まれて見て下さいね。

本日までの講義を通して一番大事なものは

「古典」は「古臭く」「固く」「難しい」

ということばかりではない

というイメージがつくられているならば

もう言うことはありません！

もうすでに！

皆さまの心の中に

『大人（たいじん）』への道がうっすらと表れているのではないかと

私はそう信じております！

5回に渡り

ともに学んで頂きましたことを心より嬉しく思います。

この学びが皆さまの今後の人生にお役に立つことを願って

最終の講義を終了させていただきます。

最後まで本当にありがとうございました。

## おわりに

---

「はじめに」でも書かせて頂きました通り  
この古典「大学」は  
「まっすぐ」をキープしながら進むのが難しい現代において  
その「まっすぐ」に生きる  
その方法を教えてくれる  
「生き方の指南書」  
になります。

「四書五経」ってご存じでしょうか？

その「四書」とは  
「論語」「孟子」「大学」「中庸」  
この4冊の古典を指しまして  
どれも  
「生き方の指南書」  
になります。

江戸時代にありました「寺子屋」では  
子どもたちがこの「四書」を勉強していたのですが  
最初に勉強したのが「大学」だったのです。

そういった教育を受けた  
吉田松陰先生はじめ幕末の志士たちが  
「明治維新」  
という世界でも大きな意味のある  
「偉業」  
を成し遂げたのです。

残念ながら...  
敗戦による戦後教育策により  
この古典の勉強が一切廃止された期間により  
70年も経ったいま  
その存在すら知らない...  
という方が多くなってしまいました。

それは本当にもったいないことだと  
私は考えておりました  
管理部門の社員研修や  
新米リーダー研修には  
こちらの古典「大学」を使用して  
「生き方の軸」  
「考え方の軸」  
「迷った際の判断の軸」  
を育てることの支援をさせて頂いております。

この度のこちらの電子書籍は  
その研修の一部を  
私のメルマガを登録して頂いた方への特典として  
5回の「メールセミナー」  
として配信している内容をまとめさせて頂いたものになります。

こちらの電子書籍の内容が  
皆さまのこれからの  
「生き方の指針」  
に少しでもお役に立てるのでしたら  
これ以上の幸せはありません。  
最後までお読みくださいませ本当に  
本当にありがとうございます。

## 筆者プロフィール

---

中村 雄介（なかむら ゆうすけ）

株式会社マナビート

<http://www.manabeat.jp/>

代表取締役 兼 人事総務コンサルタント

昭和48年9月3日生まれ

長崎県長崎市出身

長崎大学経済学部卒

大学卒業後に福岡にて金融業界に勤めるも肌が合わず退職。

心機一転、「教育業界」を目指して

小中学生を対象とした個別塾業界に転職。

二教室を担当する指導者兼教室運営責任者、

生徒募集を専門とした企画開発部員を経て

幼児から小学生を対象としたスポーツスクール運営企業の創業メンバーとして独立。

まったくゼロから管理部門を立ち上げ、

スクール運営を裏から支える「後方支援」に特化した管理システムを構築する。

トップマネジメントの一員として

福岡にて社員数10名からスタートし全国17拠点・海外2拠点

会員数3万名・社員数400名規模までの成長を支える活動を行う。

創業10年を区切りとして2011年に独立。

企業と医療機関のための管理部門の専門家（エキスパート）

株式会社マナビートの代表取締役兼人事総務コンサルタントとして

管理部門（主に人事総務部門）に特化して

「面接」のやり方や「いい人財」を見分ける方法のアドバイスを専門に行い  
企業と医療機関の管理部門スタッフの成長に貢献。

致知出版社公認「応援ブロガー」22名のひとり

致知出版社で現在唯一の「致知仲間」認定

パワー&エレガンス魅力学講座修了生

魅力学エグゼクティブ講座修了生

感動魅力学受講生

インターナショナル魅力学協会員